

4分の3以上が入院が必要な症状

【トラクター・農機具等が関連した事故による救急統計について】

郡山地方広域消防組合管内では過去10年間（2013年から2022年まで）に、トラクターの横転や農機具への巻き込まれ事故により、62人が救急搬送されており、そのうち74.2%を占める46人が入院が必要な症状もしくは死亡に至っています。

これから稲刈りをはじめとした農作物の収穫時季を迎えるにあたり、これら重症化率の極めて高い事故の予防を図るため、以下のとおり救急統計をまとめましたのでお知らせします。

※ 田畑での農作業のほか、林業や園芸等を含む

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値

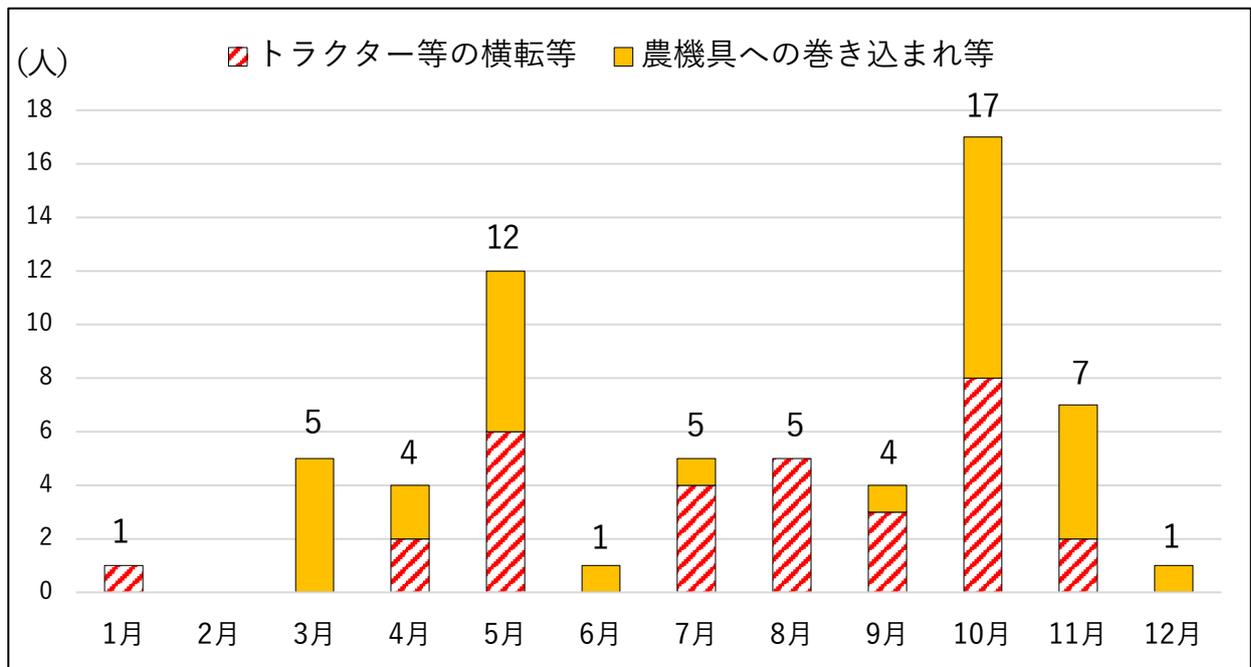
<事故区分>

「トラクター等の横転等」・・・トラクター、コンバイン等が横転する又は車両等に衝突する等して怪我を負ったもの。

「農機具への巻き込まれ等」・・・農機具への巻き込まれ、挟まれ等によって怪我を負ったもの。

■ 発生月別の救急搬送人員

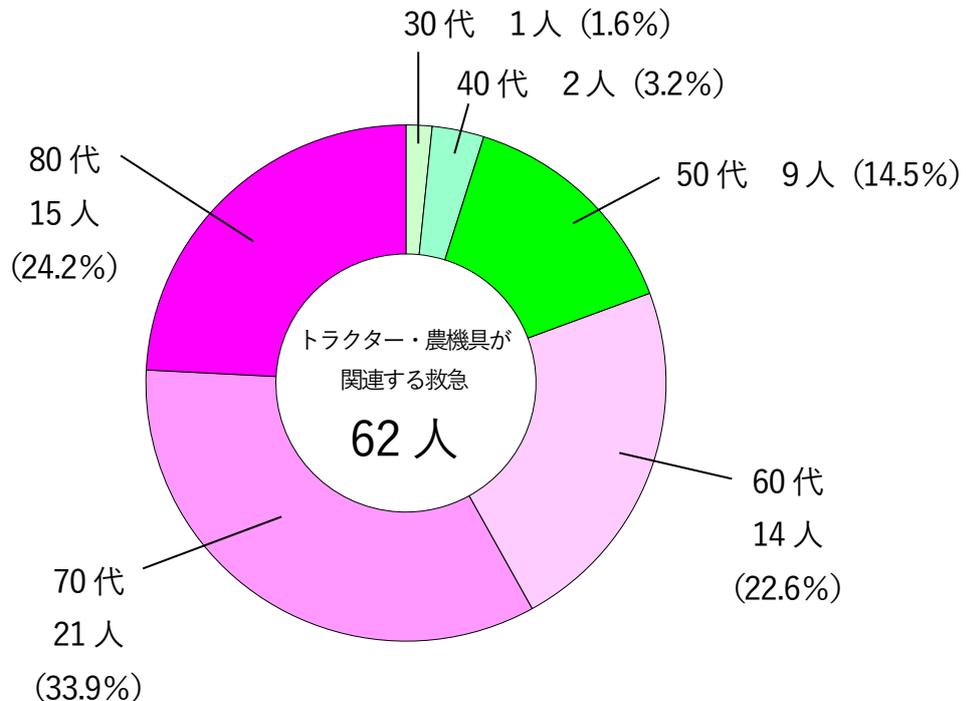
発生月別の搬送人員をみると、10月が最も多く17人（27.4%）、次いで5月が12人（19.4%）、11月が7人（11.3%）と続きます。田植えと稲刈りシーズンに集中していることが分かります。



■ 年代別の救急搬送人員

年代別の救急搬送人員をみると、70代が最も多く21人（33.9%）、次いで80代が15人（24.2%）、60代が14人（22.6%）と続きます。

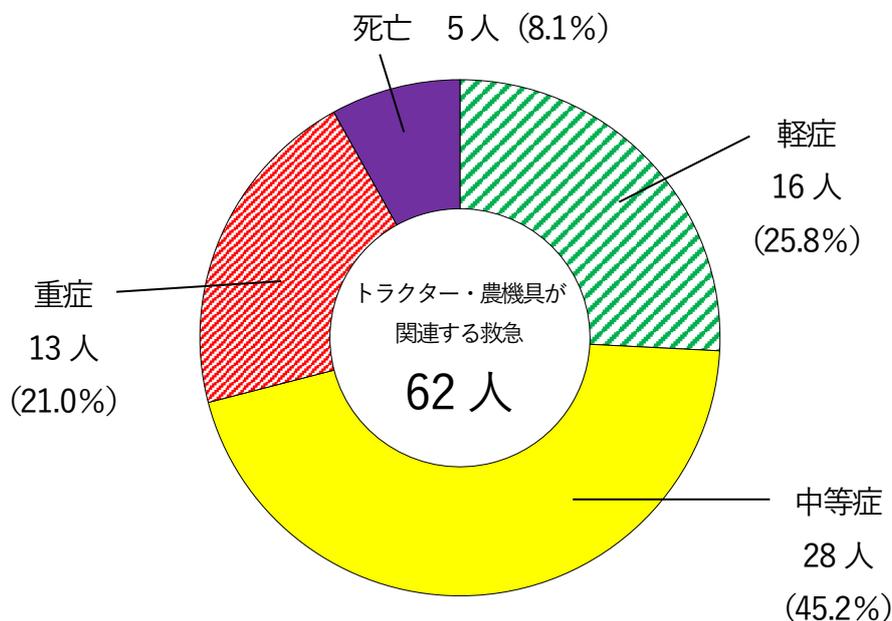
70代から80代で50人（80.6%）と全体の8割以上を占めていることが分かります。



■ 傷病程度別の搬送人員

傷病程度別の搬送人員をみると、中等症が最も多く28人（45.2%）、軽症が16人（25.8%）、重症が13人（21.0%）、死亡が5人（8.1%）と続きます。

全体の74.2%を占める46人が入院が必要な症状もしくは死亡に至っており、重症化率が極めて高いことが分かります ※ 2022年における全救急における傷病程度は、軽症が53.0%、中等症が36.0%、重症が8.3%、死亡が2.6%



■ 事例

- ・脱穀作業中、機具の回転式ブレードに誤って右手を巻き込まれ受傷した。(80代男性 中等症)
- ・コンバインを運転しバックしていたところ、土手から田んぼに横転し受傷した。(60代男性 重症)
- ・トラクターを運転中、道路脇約2m下の畑に入ろうとしたところ横転し、トラクターの車輪に大腿部が挟まれ受傷した。(70代男性 重症)
- ・田んぼで農作業中、バックしてきたトラクターに気づかず下敷きとなり受傷した。(70代女性 重症)
- ・公道を走行中のトラクターに普通自動車が発生し、トラクター運転手が受傷した。(70代男性 死亡)
- ・小型耕運機を使用中、バランスを崩しロータリー部分に、右下腿部が巻き込まれ受傷した(50代男性 中等症)